

共通テストへの CBT 導入に係る検討を求める政府決定・報告等

教育再生実行会議「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について」(第四次提言)(平成 25 年 10 月 31 日)(抄)

3. 大学入学者選抜を、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定するものに転換するとともに、高等学校教育と大学教育の連携を強力に進める。

(1) 大学教育を受けるために必要な能力判定のための新たな試験(達成度テスト Z(発展レベル)(仮称))の導入

- 達成度テスト(発展レベル)(仮称)は、その結果をレベルに応じて段階別に示すことや、各大学において多面的な入学者選抜を実施する際の基礎資格として利用することなど、知識偏重の 1 点刻みの選抜から脱却できるよう利用の仕方を工夫する。将来的には、試験問題データを集積し CBT 方式で実施することや、言語運用能力、数理論理力・分析力、問題解決能力等を測る問題の開発も検討する。

中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体改革について」(平成 26 年 12 月 22 日)(抄)

2. 新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた改革の方向性

(1) 各大学のアドミッション・ポリシーに基づく、大学入学希望者の多様性を踏まえた「公正」な選抜の観点に立った大学入学者選抜の確立

② 入学希望者に求められる学力を評価する新テストの導入

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の在り方

◆ CBT 方式での実施を前提に、出題・解答方式の開発や、実施回数の検討等を行う。

高大接続システム改革会議「最終報告」(平成 28 年 3 月 31 日)(抄)

(3) 「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の導入

ウ 具体的な仕組み

⑥ CBT の導入

- 思考力・判断力・表現力を構成する諸能力をテストによって評価するには、CBT の導入が有効であると考えられる。例えば、複雑な文章の構成力を問う問題や統計的方法を用いて複雑な現象を表現する問題の導入、多様な表現形態による様々な資料や動画等を活用した出題内容の拡大、テキスト入力等を利用した記述式問題の導入、音声入力を利用したスピーキングの評価、答えが一つに定まらない判断を相当回数伴う問題の導入、同一テスト時間内において問題の正答率に応じてそれ以降の問題の難易度を変えたりすることのできる適応型テストへの拡張、その他多くの展開を想定できる。

- 他方、CBTについては、実施のための環境整備に時間を要すること、入学者選抜に係る大規模なテストにおける実施事例がないことなどに鑑み、導入には十分な準備が必要である。
- このため、平成36年度から始まると想定される次期学習指導要領の下でのテストからCBTを実施することとし、現行学習指導要領の下での平成32～35年度間については、CBTの試行に取り組む。試行においては、CBTの導入に向けた実証的な検討の成果や、「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の検討状況や実績などを踏まえつつ、端末の整備、システムの安定性・セキュリティの確保、機器導入・維持管理のコスト、その他の本格的実施に当たって前提となる課題について、専門家や民間事業者等の意見も聴きつつ十分な検討を行う。

「大学入学共通テスト実施方針」（平成30年7月13日文科科学省）（抄）

11. その他

- ※ CBTの導入については、引き続きセンターにおいて、導入に向けた調査・検証を行う。平成29年度については、問題素案の集積方法の検討及び集積等を行う。この成果も踏まえ、平成36年度以降の複数回実施の実現可能性を検討する。

「未来投資戦略2018—「Society 5.0」「データ駆動型社会」への変革—」（平成30年6月15日閣議決定）（抄）

第2 具体的施策 II. 経済構造革新への基盤づくり [1]データ駆動型社会の共通インフラの整備

2. AI時代に対応した人材育成と最適活用 2-1. AI時代に求められる人材の育成・活用

(3) 新たに講ずべき具体的施策

i) 大学等におけるAI人材供給の拡大

- ・ 大学入学共通テストにおいて、平成36年度から必修科目「情報I」などの新学習指導要領に対応した出題科目とすることについて本年度中に検討を開始し、早期に方向性を示すとともに、コンピュータ上で実施する試験（CBT）などの試験の実施方法等について検討を進める。

「AI 戦略 2019」（令和元年 6 月 11 日統合イノベーション戦略推進会議決定）（抄）

II 未来への基盤作り 教育改革と研究開発体制の再構築

II-1 教育改革 (1) リテラシー教育

【大学入試・就職】

- ・ 大学入学共通テスト「情報 I」を 2024 年度より出題することについて CBT 活用を含めた検討

「成長戦略フォローアップ」（令和 2 年 7 月 17 日閣議決定）（抄）

1. 新しい働き方の定着 (2) 新たに講ずべき具体的施策

xii) 大学等における Society5.0 時代に向けた人材育成

- ・ Society5.0 時代に必要な思考力・判断力・表現力などの学力を評価する大学入学共通テストを着実に実施していく。また、当該テストにおいて「情報 I」を 2024 年度から出題することについて CBT 活用を含めた検討を行う。